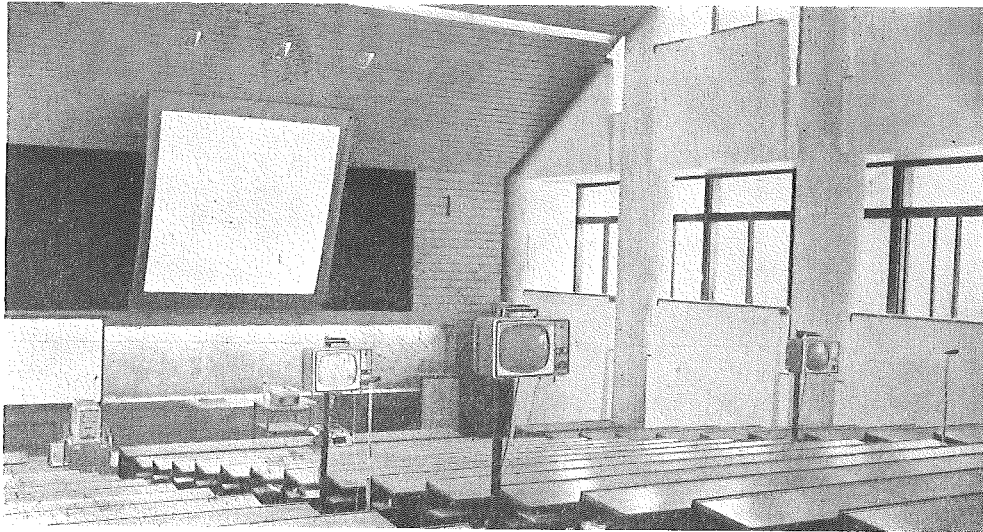


洛友會々報

京都市左京区吉田、
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛 友 会



関電記念館大講義室

本講義室は 240 の座席数があり、視聴覚教育設備として投写型テレビ受像機などのテレビ装置、各種映写設備、音響装置、自動捲上式暗幕、各種スクリーン、照明設備があり、これらの統括制御盤が備え付けてあります。

随 感

東京五輪と国際親善

三十五カ国の選手を迎えた東京国際スポーツ大会は、さる十月十一日から六日間花々しく行なわれた。われわれが準備に総力を捧げてオリンピックへの足がためとあってみれば本番の五輪そのものが急にさし進んで来たようで、いままさらながら気づわしい感じがする。

オリンピックは、もとよりスポーツの国際競技をその本旨とする。しかし一面またスポーツを通しての国際的相互理解の増進による世界平和への貢献を、大きな使命とするものであることは、いまさらいうまでもあるまい。政治や経済での工作では話がかた苦しくもなるが、スポーツとあらば、皮膚の色がちがおうが言葉が通じなからうが妙技美技には幾万大衆の歓声が一斉にわき上がりもし、また思わず肩をだき合うことにもなる。私はこんどのオリンピックが、国際理解のために大きな役割を果たしてくれることを期待している。

鳥養利三郎

に関する研修が行なわれているのは喜ばしいことである。京都では最近高等学校生徒の国際理解弁論大会が催されて、若い人たちの抱負が聞かれたそうであるが、一方同じころ北海道および東北諸県の社会教育関係者が多数函館に集まり、具体的な指導方策について討議を重ねられたそうである。

ただここで気のつくことは、国際親善というものは、ただ一時的な、あるいは情緒的なものでは実効をあげることはできないということである。的確な知的検討の積み重ねの上に立つものでなければならぬのである。まず民族としての自分自身の長所短所をよく知らなければならぬ。その上で相手方を十分研究してかからなければならぬのである。

ユネスコでは、国際理解教育をすすめるには、どういう方法によるべきであるかを実験するために各国に協同学校というのを設けた。その協同学校での研究を一つ二つ記してみると、ドイツのある学校ではフランス研究というのをテーマとして取り上げている。ドイツとフランスとは長年敵視しあってきた間柄で、そのため幾度か戦争をまき起こしたのであるが、もしこの協同学校の研究の

成果が、フランス民族の真の姿を知るに役立つならば、両国の間の永久の平和のために大きな貢献をするであらう。

またフィリピンの協同学校に日本研究という課題を取り上げたのである。私は五年前にこの国をたずねて排日風が根強く全土に満ちているのを見てきた。ところがこの協同学校の、ある生徒の報告に「日本は国土美しく、民族は清潔、親切、勤勉で、また技能に秀れている。戦争中にわれわれフィリピン人に対して無道の行ないが数々あったそうであるが、だからといって、その当時まだ生まれてもいなかったわれわれ少年同士までがいまなお敵視しあう理由はない」と記したのがあるようだ。ほんの僅かの例にしろ、こういうことを聞くのはうれいではないか。同時にまた青少年に対する指導訓練には、留意すべきことの甚だ多いのを痛感する。ついでに記してみる、と、この報告に「日本人は欧米人に対しては必要以上に卑屈であるにかかわらず、東洋人に対しては不当に尊大ぶる」というようなことが散見されるのは、何となくさびしい思いがする。

このオリンピックで、日本がスポーツそのもので大いに気をはくことはもとより望むところであるが、同時にまた国際人として一歩前進成長する好機たらしめることをこいねがうものである。

執 念

一九六三年十一月二十三日(日本時刻)は、歴史に長く書きとめられ

る日となるであろう。また日本文化史上では一線を画する日となるのではなからうか。世界平和と自由のために、けんめいであったケネディ大統領が暗殺されるという大事件が突発した日であり、しかも偶然とはいふものの、その凶報が、成功をおさめた人工衛星による日米間テレビ中継実験の、最初の電波に乗って伝えられて来たという日であるからである。

さて人間にはだれにでも欲というものがある。大なり小なり欲のない者はあるまい。ただその欲の姿と深さにおいてちがいがあられるだけである。どん欲、ごう欲といわれるまでに金をほしがったり、権力にあこがれたりする者があるかと思うと、金や権勢には見向きもしないが趣味とか研究とかになると、あくなき追求欲をたくましくする連中がある。そしてその欲心を満足させようとする情熱にも、きわめてあっさりしているものもあれば、また一度食いついたら離れるものかというような、執念深いまでにはげしい者もある。

私はもともとここでこういう議論をしようとは少しも考えていなかったのだが、たまたまケネディ暗殺という大事件と、日米間テレビ中継放送という、これも文化的にははなはだ重要な事件とが同じ日に、しかもからみあって伝えられて来て、明暗両面ショッキングのはきみ打ちにあったものだから、関係のなさそうなこれら二つの事件の間にも、何かの共通したものがあるいはこじつけられるのではなからうかと、つい考え

こんだわけである。

現代はエレクトロニクス時代である。世界中内外どこに起こった、どんな出来事でも、すべて居ながら見たり聞いたりすることができるのであるが、それさえが今後は複写でなく、なまのもののそのままの同時放送が、可能になるということが実証されたのだから、えらいことになったといわなければならぬ。電子計算機の文化と産業への寄与はいうに及ばず、医学、理学その他あらゆる学問のめざましい発展にも、電子科学および技術の果しつづつある役割りはきわめて大きい。人工衛星の成功も、あるいはまた月世界旅行の可能性もエレクトロニクスの発達があったればこそといわなければならぬ。

しかしながら真空管が空まれた以後、学者研究者がその優秀性に満足しきつていたらならば、いかえればさらに真空管以上のものを発見しようという野望を起さなかつたならば、今日のエレクトロニクスは生まれなかつたであらう。

研究者というものは、どんなによいものがあっても現状で満足するものではない。どん欲なまでに執念深く、つきからつきへ、よりよきものをあさりつづけるの執念が真

空管からトランジスターへ、そしてさらにバラメトロンへ、あるいはまたダイオードへと、絶えざる進歩をつづけさせ、今日のエレクトロニクス時代をきずき上げたのである。この執念はいつまでも、うけつがれて、もえつづける。

ケネディ暗殺者の人となりや、大物殺人まで企てた理由はわからないがただあくことを知らぬ執念の持ち主であることだけはたしかである。同じく執念のいたすところでありながら、結果がこうもちがつてくるものか恐ろしいことである。

デベローピング
カントリーズ

国際会場に出ると、標題の言葉を耳ざわりになるほど聞かされる。昔ならば後進国とか未開発国とかいわれていた国のことを、今ではこういうように呼ぶことになったのである。

戦後やっとなり独立したとか、あるいはまた古くても未開発のままに残され、科学技術どころか、普通教育さへまだまだ行き渡らないような国と欧米の先進国とは、比べものにならないほどすべての点で大きな開きがある上に、前者は後者の助けを借りなければ発展できないこともよくわかっていられるのだから、後進国といわれる位のこと、がまんしてもよさそうなるものである。ところが彼等は鼻息が荒くて、そう呼ばれるのは彼等の気が許さぬ。そこで出て来た名案がデベローピング・カントリーである。

彼等が自分達のことを「われわれデベローピング・カントリーの国民は……」というように演説するのは当然として、英米等の代表もまた「われわれはデベローピング・カントリーズに対しては援助を惜しまない」というような調子でやるから、毎日毎時何回となく、デベローピング・カントリーという言葉、いやというほど聞かされることになる。

それなら昔からのいわゆる先進国は何と呼ぶのかというと、それはデベローブド・カントリーである。月世界への交通をさえ計画しようとするほどの高等の技術を持っている国と国民の大半がまだ文盲のままに残されている国との大きな開きを、わずかに (develop) ing と (develop) ing との語尾の区別だけで片づけようというわけである。日本はどちらにはいるのかというと、デベローブドの方に入れてくれているらしい。おかげでわれわれはわれわれの口から、この日本をさしてデベローピング・カントリーと呼ぶ必要は全くない。私はただ一度だけデベローピングという言葉を使ったが、しかし、それは「日本国は自国の経験に従って、デベローピング・カントリーズ特にアジア地域のそのような国々の教育普及計画に対して、援助を惜しまないつもりである」と述べた場合だけであった。

て、すべての国の水準が平均してこそ、人類は幸福になれるのであるが、それにはまず各民族の気位が同じ程度に高められなければならない。ある黒人代表が「先進国の文化だけに価値があるのでない。われわれにも諸君に与え得るものがある。諸君はわれわれのジャズに日夜陶醉しているではないか」と演説していた。

白い顔、赤黒い色の者、うるしのような真つ黒の人等等、数百名の者が交りあつて一堂に集まり、時にははげしいがみ合いになることもあるにはあるが、結局はよい世界をつくるとういう一つの目的に集約して行けるのは、本当に気持ちのよいものであるが、それというのもすべての国々が平等の立場にあるということを自覚し、またおくられている卑屈にならずに気位を高く保つていればこそであらう。そう思うと、いやになるほど聞かされたデベローピングという言葉も今ではなつかしい思い出にさえ感じられる。

ただ少々気になることは、この二三年の間にアフリカ地域の独立国が急に多くなって、今では三十四カ国にもなったと思うが、それ等が大国と一列一体に一票の権利を持つということである。つまりデベローピングの方の数がデベローブドのそれよりも多くなって来たということである。国連でもユネスコでもデベローブドがデベローピングを援助する建て前になっているが、デベローピングが多数をたのんで援助強要に出て来はしないかということである。

第十三回 洛友会総会通知

一、日時 五月十六日(土) 午後三時より受付開始

二、総会および懇親会々々場

東京都港区芝高輪西台町一番地 光輪閣 電(山)〇一一一

国電品川駅または五反田駅 都電魚籃坂下下車

三、総会 午後四時より

議案

一、事務並に会計報告

二、昭和三十九年度予算審議

三、役員改選の件

四、その他

四、懇親会 午後四時半より

余興 舞踊その他あり

五、散会 午後七時の予定

六、会費 一、〇〇〇円

会費は別紙振替用紙をもってお払込み下さい。

なお、これをもって総会並に懇親会出席御通知に代えますから四月末日までに到着するようお願い下さい。

七、家族同伴歓迎

本会合には御家族同伴を歓迎することにしておりますから多数お申込み頂き度、この場合同伴者の会費は御主人の会費と同額として前記振替用紙でお払込み下さい。

八、諸先生の御出席

本総会には、鳥養会長はじめ諸先生が多数御出席になります。

洛友会東京支部総会 並に新会員歓迎

一、日時 五月十六日(土) 午後三時より

二、会場 光輪閣

三、総会 午後三時半

議案

一、事務並に会計報告

二、昭和三十九年度予算審議

三、その他

四、新会員歓迎会

当日は洛友会本部総会が光輪閣

前年度分会費徴収について

昭和三十八年度およびそれ以前の

会費未納の方に合算して振替用紙

を同封して請求いたしましたからお

忘れなくお払込み下さい。

なお、本年度会費は会報次号に振

替用紙を同封して請求いたしますが

ら、その節はすぐにお払込み下さい。

成人病の追放

昭五 伊藤忠雄

いろいろ考えてみると、日本人の平均寿命が七十才になったことは、老年医学が進歩したのではなく、細菌感染による乳幼児の疫痢・赤痢・青年の結核・老人の肺炎による死亡がまったく少なくなったからである。

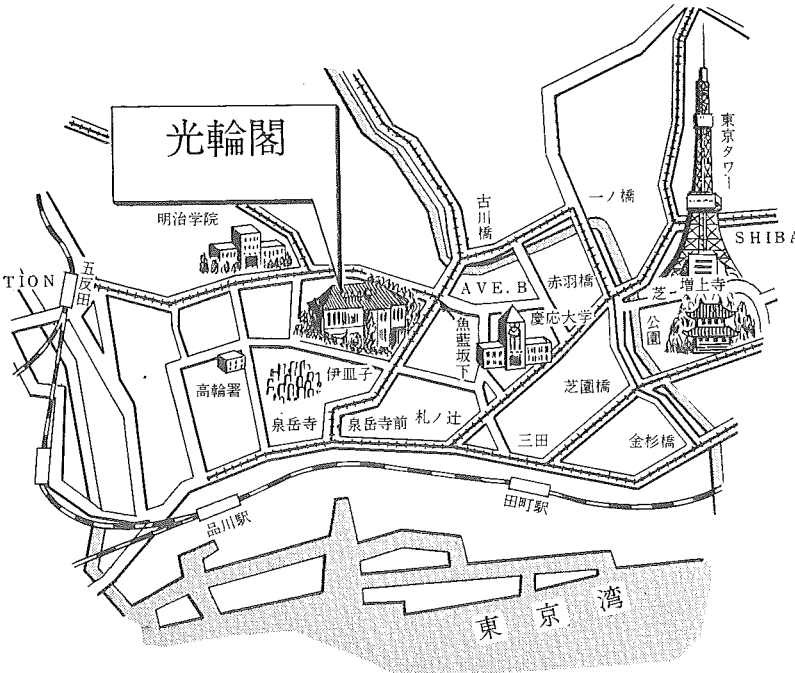
ところが老年医学については、世界の学者が老化の解明や予防について研究しているが、未だ十分な成果があがっていない。所詮、成人病は年輪をふるにつれ、自然に体に発生する病相であり、病気でないともいえるであろう。精神の老化、骨がもろくなる、老眼、性機能の減退、皮膚や毛髪の衰え、みんな、やむを得ないことと諦めねばならない。

しかし突然の死や永引く病苦は、絶対に避けたいものである。すなわち成人病を駆逐し、よしんば罹っても軽くしたいものである。人間は、種族保存、生命保持の欲求で操縦され、自由自在に駆使されている。そのうち、性欲の衰退と体温の低下が、一きわ目立っている。私は前に、本誌に完全な断熱ができるマツトレスを使用すれば、著しく若返えることを述べた。今回は、医者と対抗するようであるが、現代の医学では手古摺っている、悲惨な成人病の追放が可能であることを発見できたので、これを紹介したい。最初に生理のことから始める。

きは身ぶるいをし、筋の収縮によって熱を出すほかに、肝臓での物質の燃焼も盛んになる。なお熱の発生を盛んにする甲状腺ホルモンも分泌される。激しい運動を行ったり、体内で物質が酸化し熱発生を行ったり、また肝臓が解糖作用を行っている時にも、その部分の温度が高まり、この熱によって温まった血液は循環していつて他の冷い部分を温める。運動が激しくなると、体温は三九—四〇℃にも上がるが、この熱で温められた血液が脳の中樞神経にまわっていくと、刺戟されて、直ちに、これに応じて温熱を放出する働きがはじめられる。

このように体温や呼吸の数、脈搏数、血液の状態など、体の機能を一定に保たせる働きをホメオスタシス(恒常性保持機能)というのである。この恒常性が破られるような条件が加えられると、直ちに平衡に戻される。それ故、カゼをひいても、傷をしても自然に治るのは、ホメオスタシスという重宝なメカニズムがある賜といえる。

話をかえるが、医者が患者の病気を治すのは、ホメオスタシスを頼りにしている。他力本願といえよう。それ故、老年医学は高齢者の健康、不健康の様相をそのまま捉えて、衰退した相の中の不健康乃至は病気を治そうとするから、治療そのものもスッキリしない。高齢者の病気は、成人病であり、言葉をかえると、新陳代謝病、内分泌障害病である。老化現象そのままであり、ホメオスタシスが作用するギリギリの様相であ



る。だから健康、不健康の見境は、それほど、遠く距っていない。成人病に関する限り、医者も、ホメオスタシスを頼みの綱とすることができないから、手古摺なのだ、とも言える。だから成人病は、純医学的な物の考え方や、薬物の効き目などでは到底解決の仕様がなく、別の分野の天才が解決の糸口を発見しなければならぬ、とも言える。

食物が消化吸収されて、生体をつくる物質となり、これが集められてとりもなおさず胞細を形成する。三七℃という低温で敷え切れないほどの物質が作られるという神秘を、医学や生化学では、一種類の大腸菌と、千種類を上廻る酵素、数十のホルモン、ビタミン類が要素となっている、と説明をしている。原料である食物を敷え切れない物質に変化させる生化学的な営みからみれば、体温三七℃を最適とする微生物、酵素ホルモンのみが体内に宿をかって、繁殖し生産され且つ消費されて、生命が維持されるのである。

ところが、私と同じ年輩の六十台は、これより一〇乃至一・五度低い、三五・五一三六・〇℃という低い体温に変わりはてている。

私は、生物物理を永年勉強してきた経験からこれは大変だと勘づいて十五年前から体温を〇・五一一・〇℃あげて就寝することにした。体温が降れば、それだけ物質生産の相関性が乱脈となり、細胞を形成する上に、健全な而もエネルギーに満ちた物質を充足しえられないことになるガン細胞なども、こうしたはづみに

突然変異で発生するのではないか、などと考えたからである。こういうことを意識し永いこと温く寝んできた私の体は、同じ学友と比較して可成り若々しいと自覚するようになった。血圧は青年並、歯は虫ばんでいないし、髪は緑り、循環、消化、神経の三系統の老化がほとんどない、医者も珍しい、と言つて賞讃する程である。こういうことが動機となつて、二年前から熱伝導のないマットレスを用い、晝へ体温を伝導しないようにして、ずっと寝ている。まことに温い、熟睡ができ体の調子がよい。一〇〇〇名を越す愛用者の感想や病氣治療の効果をまとめてみると、いま迄困難視された成人病が追放できる、という結論に達した。以下これを述べよう。

○高血圧が治る。
元来本態性高血圧は、遺伝因子に基づいて中年以降から血圧が上がり、細い動脈や中等大の動脈の硬化がおこり、動脈硬化のうえに血圧の急激な変化があれば、脳出血や心筋硬塞を惹き起す。さらに動脈硬化が進むと、要領しなければならぬ。治療は、塩気をとらないように、米を食べないようにと、食慾減退に拍車をかける献立をとつてい

る。薬物療法も経続しなければ効果がないばかりか、やめると元に戻る。断熱マットを用いて高血圧を解消し、瘦せることに成功した婦人や高血圧赤ら顔の男性が数多く治つている。断熱マットを使用すると、高血圧に罹らないといふ自信がで

る。断熱マットを使用すると、お

たばかりでなく、降った血圧は、再び病的な様相を呈しない、と断言できる。その訳は、血管細胞が新生するにつれて、物質欠乏が解消され内壁が滑らかな状態にかえり、血液の流体抵抗が減るからだ、と想像される。

○卒中の予防ができる。
頭がいたい、目まいがする等の症状があらわれる、実は血管の老化で脳の毛細動脈の硬化がすすんだ証拠である。断熱マットを用いると、この症状が間もなく消える。肩のこりも序に治る。

○心臓血管系の老化が若返る
心臓血管系の老化は外部からは分らないが、断熱マットを使用すれば一年以内で動悸、息切れが治り、一寸した登山もできる。

○糖尿が消失する
脾臓から分泌するインシュリンが不足するので、細胞にブドウ糖が吸収消化されないで、そのまま尿中に排泄されて了う病氣である。近代の医学ではブドウ糖はいろんな物質をつくる基材であることが分つた。糖尿がある物質欠乏のため、歯がぬける血圧が高くなる、眼底出血をする、手足の脱疽をおこす、白内障、腎臓病等の余病が矢継ぎばやにおこつて来る。こうした一群の系統的成人病も、断熱マットを連用すると、まず糖尿病が治り、ついで余病も軽快するのである。ただし固った白内障・眼底出血の跡は、なかなか治らないようである。

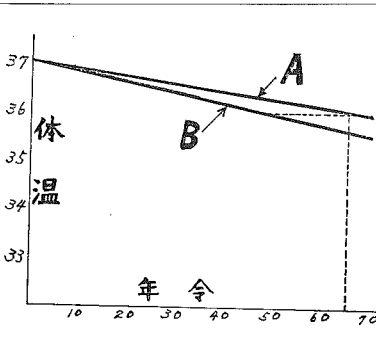
のずから仰臥位をとるようになり、それで、神経痛が治るのである。○リウマチ、老人性関節症が治る。古来温泉療法がよいと謂われていたが、断熱マットを使用するから、類似の効果が現われるのである。○不眠症・神経衰弱が治る。○痩せ過ぎ肥り過ぎが是正される。○甲状腺ホルモンが調子よく分泌するようになって、痩せ過ぎ肥り過ぎが治つて序に胃下垂が治つたという例が多い。

○便通がよくなる。
体内の大腸菌・酵素・ホルモンの分泌や生産や繁殖が調整される結果便通がよくなるのであろう。下痢癖も治る、等の効用がある。

以上医療のあらましを述べた。一口に成人病と言っても、病名や発生の場所千差万別で、甚だつかみ難いところがある。ホメオスタシスが老年になるにつれて、劣化してきて成人病は恒常性と健康・不健康との境が明瞭でなくなった症状であるが体内に潜んでミクロの生化学の相関生産性を高めてやれば治るのである。それにつけても、三七℃の体温が最適で、年令と共に劣えた体温を夜中、断熱マットで三七℃に接近させてやれば、成人病にも罹らず、また罹つても軽くないせることを発見した。要するに、昼起きてるとき

の体温は三六・〇℃以下でも、就寝中〇・五一一・〇℃高く、体温をあげて休むならば、成人病など問題にさきう、確信をえた訳である。これ以上の理由については、私は左

図によって説明をしよう。
横軸に年令・縦軸に体温のホメオスタシスをとつて、今までの寝具(B)と断熱マット(A)を使用した際の相互関係を図示しよう。



例えば六五才の人は、一年以内にかつて経験した四八才の生理に若返るのである。

最後に、人体細胞は、大体一二〇日で死滅することを念頭において頂きたい、だから物質生産の相関性を高めれば、比較的短い期間に、全細胞がエネルギーにみちた相に変貌され、確実に若返るのである。だからこの発見は、人間の新しい飼育を見出したものと言えよう。

以上、医者でない私が、有りのままを書いた次第であるが、落友会の諸氏の批判を期待しつつ擲筆する。
投稿歓迎
会員諸兄の随感、紀行など、どしどし御投稿下さい。紙面のゆるす限り登載させていただきます